

「いつまでもわが家で暮らしたいをささえる」 ～支える人@薬剤師～



◆プロフィール◆

吉本 亮治

熊本県薬剤師会 宇城支部長

(まつばせ薬局 薬剤師)

所在地：宇城市松橋町萩尾

趣味：旅行（ヒトリタビ）

「薬のあるところに薬剤師あり

～薬の効果とサイドエフェクト(副作用)～そこに備えて」

「ライフワークバランス」という言葉がありますが、これは仕事とプライベートの時間をバランス良くとれるよう、いつの頃からか使われ出したキーワードのように私は受け止めております。

ここで言うところのバランスというのは本当に大事なことで、どちらに傾き過ぎてもダメでよろしくないところです。

薬も同じで病気の治療をするために主となる効果を期待し服薬するものなのですが、あくまで適した量でなければなりません。

ところが、この適正な用量は、その人、おのおのその状態で異なります。

「適正量」とは漫然と同じではなく常に観察していかなければいけないものです。

人間は生きていくため常に自律神経を使い、環境に適応しようとする習性があり、少しの環境の変化に無意識にストレスを感じ取ってしまいます。

そこで何とか均衡を保ち、出来る事なら自然に備わる自分の力で、この環境を乗り越えていきたいものです。

しかし様々な要因で人はバランスを崩し病気という状態におちいることがいつ起こるか分かりません。

例えば、連日の過労で風邪を引いたときは風邪薬。慣れない乗り物に酔った時には酔い止め薬等。

時として、薬を飲まずに治すという選択をしても良いかもしれません。

あるいは飲んだとしても期間を決めて飲むべきでしょう。

同じように生活習慣病において服薬は治療の補助ということを意識して、飲み続けるしかないと最初から決める前に、食生活や運動を常に考慮し病気と対峙していきたいものです。

勿論、病気の治療の為に服薬が第一となるケースがあり、そこは用途・用量を守り自己判断で中止されないよう薬剤師を使って頂きたいものです。

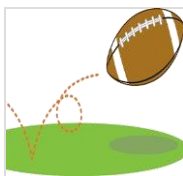
毎日飲まざるを得ない薬がある場合、特に薬の種類が複数の時、その副作用や相互作用は痛手となり大変なことにならないよう薬剤師は健康のサポートをしていかなければならない義務があると私は考えております。

クスリは、必要な人に必要な量を必要な間だけ使用して頂きたく、願わくば脱クスリ、もしくは必要最小限のクスリで健康長寿に貢献したいものです。

振り返れば、高度経済成長期の名の下に日本人の勤勉さが発揮された昭和。そこで次々と日本の名だたる企業が活躍を果たし国家の発展に寄与され、平成の世の中で更に働き方改革が問われています。

そこで令和の時代にラグビー日本ではONE TEAM（ワンチーム）とささやかれています。これは医療から生活の場へ・・・連携というパスがいつ回って来てもしっかり薬剤師としてボールをキャッチし、そしてパスを繋いで走り続けなければいけないと感じております。

薬剤師として地域の方々の「家で暮らしたい」という思いをチーム共通のゴールポストとして捉え、トライしていきたいものです。



ONE TEAM!!!